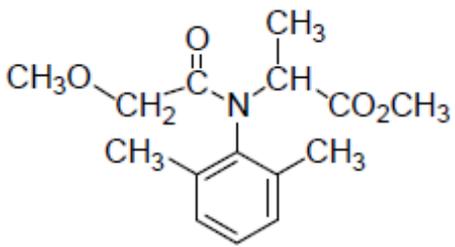


メタラキシル及びメタラキシルM

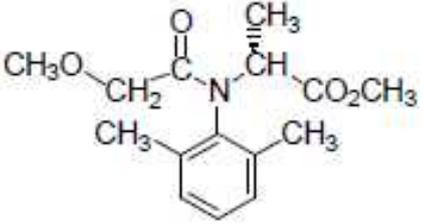
I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

①メタラキシル

化学名	メチル=N-(メトキシアセチル)-N-(2,6-キシリル)-DL-アラニナート				
分子式	C ₁₅ H ₂₁ NO ₄	分子量	279.3	CAS NO.	57837-19-1
構造式					

②メタラキシルM

化学名	メチル=N-(メトキシアセチル)-N-(2,6-キシリル)-D-アラニナート				
分子式	C ₁₅ H ₂₁ NO ₄	分子量	279.3	CAS NO.	70630-17-0
構造式					

2. 作用機構等

①メタラキシル

メタラキシルは、フェニルアミド骨格を有する殺菌剤であり、その作用機構は、病原菌の菌糸伸長及び胞子形成の阻害である。本邦での初回登録は1984年である。

メタラキシルは、光学異性体のD体とL体を等量有するラセミ体であり、D 体のみ殺菌活性を有する。

製剤は粉剤、粒剤、水和剤及び液剤が、適用作物は稲、果樹、野菜、豆、花き、樹木、芝等がある。

原体の輸入量は、49.0 t（20年度*）、55.0 t（21年度）、73.0 t（22年度）であった。

※年度は農薬年度（前年10月～当該年9月）、出典：農薬要覧-2011-（（社）日本植物防疫協会）

②メタラキシルM

メタラキシルMは、メタラキシルの光学異性体のうち、殺菌活性を有するD体を91%以上に高めた殺菌剤である。本邦での初回登録は2007年である。

製剤は粉剤、粒剤、水和剤及び液剤が、適用作物は稲、果樹、野菜、いも、豆、芝等がある。

申請者からの聞き取りによると、製剤の製造に用いられたメタラキシルMの原体の輸入量は、4.8t（平成22年度*）であった。

※年度は農薬年度（前年10月～当該年9月）

3. 各種物性

①メタラキシル

外観・臭気	白色結晶性粉末、無臭	土壌吸着係数	$K_{F^{ads}_{OC}} = 14 - 480$ (25°C)
融点	72.2°C	オクタノール ／水分配係数	$\log Pow = 1.75$ (25°C)
沸点	約 270°C で分解するため 測定不能	生物濃縮性	—
蒸気圧	$7.5 \times 10^{-4} Pa$ (25°C)	密度	1.2 g/cm ³ (22°C)
加水分解性	半減期 > 200 日 (pH1、20°C) 115 日 (pH9、20°C) 12 日 (pH10、20°C) 88 日 (pH9、25°C) 分解せず (pH5、7; 25°C)	水溶解度	$8.4 \times 10^3 mg/L$ (22°C)
水中光分解性	半減期 東京春季太陽光換算 130 日 (滅菌緩衝液、31±8°C、2-75W/m ² 、太陽光下) 27.2 日 (東京春季太陽光換算 159 日) (滅菌蒸留水、25°C、50W/m ² 、300-400nm) 17 日 (東京春季太陽光換算 100 日) (非滅菌自然水、25°C、50W/m ² 、300-400nm) 15 日 (東京春季太陽光換算 93 日) で分解せず (滅菌自然水、24.7±0.7°C、48 W/m ² 、300-400nm)		

②メタラキシルM

外観・臭気	無色液体、無臭	土壌吸着係数	$K_{F^{ads}_{OC}} = 31 - 41$ (20°C)
融点	-38.7°C	オクタノール ／水分配係数	$\log Pow = 1.71$ (25°C)
沸点	270°C で分解するため 測定不能	生物濃縮性	—
蒸気圧	3.3×10^{-3} Pa (25°C)	密度	1.1 g/cm ³ (20°C)
加水分解性	半減期 > 30 日 (pH1、5、7、50°C) 116.4 日 (pH9、25°C) 7.7 日 (pH9、50°C) 2.7 日 (pH9、60°C)	水溶解度	2.6×10^4 mg/L (25°C)
水中光分解性	240 時間（東京春季太陽光換算 65.3 日）で分解せず （滅菌緩衝液、25.8±0.2°C、49.8-54.7W/m ² 、300-400nm） 207 日（東京春季太陽光換算 971 日） （滅菌蒸留水中、25±2°C、36.5-401W/m ² 、300-800nm） 6.7 日（東京春季太陽光換算 31.4 日） （非滅菌自然水、25±2°C、36.5-401W/m ² 、300-800nm） 15 日（東京春季太陽光換算 93 日）で分解せず （滅菌自然水、24.7±0.7°C、48 W/m ² 、300-400nm）		

II. 安全性評価

許容一日摂取量 (ADI)	0.022mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成 23 年 7 月 7 日付けで、メタラキシル及びメタラキシルMの ADI を 0.022 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値はラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験における無毒性量 2.2 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除して設定された。</p>	

III. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

水田使用及び非水田使用のいずれの場面においても使用されるため、それぞれの使用場面ごとに、メタラキシル単用、メタラキシル M 単用、並びにメタラキシル及びメタラキシル M の併用による使用方法の中で水濁 PEC が最も高くなる使用方法について表のパラメーターを用いて水濁 PEC を算出する。

1. 水田使用時の水濁 PEC

使用方法		各パラメーターの値	
剤 型	① 2% 粒剤 (メタラキシル) ② 4% 液剤 (メタラキシル)	I : 単回の農薬使用量 (有効成分 g /ha)	① 1,200 ② 8
使用場面	水田	N_{app} : 総使用回数 (回)	3
適用作物	① 稲 ② 稲 (箱育苗)	A_p : 農薬使用面積 (ha)	50
農薬使用量	① 6 kg/10a ② 500 mL/箱 ^{1) 2)}		
総使用回数	① 2 回 ② 1 回		
地上防除/航空防除	地 上		
施 用 法	① 散 布 ② 土壌灌注		

¹⁾ 1 箱あたり本田 0.5a に相当。

²⁾ 希釈液 (希釈倍数 500 倍) として。

2. 非水田使用時の水濁 PEC

使用方法		各パラメーターの値	
剤 型	2%粒剤 (メタラキシル)	I : 単回の農薬使用量 (有効成分 g/ha)	4,000
使用場面	非水田	N_{app} : 総使用回数 (回)	3
適用作物	花き・観葉植物	A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
農薬使用量	20 kg/10a		
総使用回数	3 回		
地上防除/航空防除	地 上		
施 用 法	散 布		

3. 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC _{Tier1} (mg/L)
水田使用時	0.03206 …
非水田使用時	0.00018 …
うち地表流出寄与分	0.00018 …
うち河川ドリフト寄与分	0.00000 …
合 計 ¹⁾	0.03224 … ÷ <u>0.032 (mg/L)</u>

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字 2 桁とし、3 桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総合評価

1. 水質汚濁に係る登録保留基準値（案）

公共用水域の水中における予測濃度 に対する基準値 ¹⁾	0.058 mg/L
以下の算出式により登録保留基準値を算出した。 ²⁾	
$0.022 \text{ (mg/kg 体重/日)} \times 53.3 \text{ (kg)} \times 0.1 \text{ (10\% 配分)} \div 2 \text{ (L/人/日)} = 0.05863\dots \text{ (mg/L)}$	
ADI	平均体重

¹⁾ 登録保留基準値は、メタラキシル及びメタラキシルMのいずれについても、それぞれに含まれる光学異性体のD体とL体の和である。

²⁾ 登録保留基準値は有効数字 2 桁（ADI の有効数字桁数）とし、3 桁目を切り捨てて算出した。

< 参考 > 水質に関する基準値等（メタラキシルとして換算）

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	0.5mg/L
水質要監視項目 ²⁾	なし
水質管理目標設定項目 ³⁾	0.06 mg/L
ゴルフ場暫定指導指針 ⁴⁾	0.58 mg/L
WHO飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止に係る暫定指導指針の一部改定について」（平成 22 年 9 月 29 日付け環水大土第 100929001 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, third edition, incorporating first and second addenda

2. リスク評価

水濁 $PEC_{Tier1} = 0.032 \text{ (mg/L)}$ であり、登録保留基準値 0.058 (mg/L) を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬理論最大摂取量と対 ADI 比

農薬理論最大摂取量(mg/人/日) ¹⁾	対 ADI 比 (%) ²⁾
0.37	32

¹⁾ 食品経由の農薬理論最大摂取量は、平成 21 年 12 月 2 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会における食品群毎の基準値案を基に算出した理論最大摂取量を示す。

²⁾ 平均体重 53.3 kg で計算